第四講『たはれ草』　政治経済学部

次の文章は、雨森芳洲の『たはれ草』に収められた随筆文である。読んで、あとの問いに答えよ（なお、途中省略した箇所がある）。

もろこしの詩、この国の歌、深奥なる事変はりはあるまじ。詩は作りよけれど、歌は詠みがたしといへる人あり。これはさる事あるべし。歌はこの国の言葉なれば、かく詠みては歌にはあらぬといふ事、詠める者も、また見る者もそのおぼえあれど、詩はもろこしの言葉なれば、そこそこに作りてもおほかた聞こゆるほどなれば、その身もよしと思ひ、見る人も妙（たへ）なりとほめはやすより、歌は詠みがたし、詩は作りやすきといふなり。もしもろこし人、この国の歌詠む事あらば、歌は詠みやすけれど、詩は作りがたしといふべし。詩は作りやすきといへるは、詩を知らぬ人の言葉、歌を詠みやすきといへるは、歌を知らぬ人の言葉なるべし。いづれかたやすき事ならむや。文作る事も、またこれに同じ。

この国に仮名といふもののなくば、人々A<u>文字を知るべきに</u>といへる人あり。これ思はざるの言葉なるべし。もろこしの文字、西域の梵字、韓国（から）の諺文（おんもん）、この国の仮名、そのほか韃靼（だったん）、おらんだの文字、みなみなその国の言葉に応じ、誰始むともなく、

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

女童、下々までこれを用ゆ。まことに自然の理に出でたり。仮名といふものなくばといへるは、その国々の言葉なくばといへるに等しかるべし。

この国の詩作り、文書ける人、その才学を見れば、もろこしのたれ、それがしなどいへるに、さまで劣らじと思ふ人いかほどもあれど、言葉の違へる故にこそ、それのみにてやめ、うらめしといふべし。

もろこしの言葉知らずしては、詩作り文書くことなるまじと、もろこし言葉学べる人は必ずいへるを、もろこしの言葉知りたる人の詩文を見るに、さまで変はりたることなければと、またある人のいへる、これは皆その[B]ひとかたのみを知れる言葉なるべし。詩文は言葉の精華なるものなれば、言葉を知らずして、いかでか精華を求むべき。この国の言葉知らぬもろこし人、歌詠むといはば、[C]をかしきことと思ふなるべし。されど詩文をよくせぬもろこし人、いかほどもあれば、もろこし言葉知りたりとて、詩文をよくすべきにもあらず。まことの詩文といへるは、もろこしの言葉知りて、しかも才学すぐれたる阿倍のなにがし、釈空海などいへる人こそ、恥ぢ顔［ D ］。それがしももろこし言葉少し学びたれど、詩作り文書く事は知らざる故、それがしのつたなきを見て、もろこし言葉捨て給ふなと、同志の人には常に語りき。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

おほよそあらゆる文字、訓（よみ）はこの国の言葉なれど、音（こゑ）はもともろこしの音に似たるは甚だ少なし。風気の異なる故にや、橘は淮（わい）（注1）を渡りて化して枳（からたち）となるといへるを、不思議なりといひしに、この国にても蜜柑、九年母などいへるもの、その樹を移して出羽に植うれば、みな枳殻となるといへり。ちかごろある和尚の物語に、薩摩より出づる紅蜜柑といふもの、色もうるはしく、味はひも優れたれば、その種を取りて植ゑしに、ほどなく萌え出でたれど、みなみな柚（ゆず）となれりと語りき。唐音もひと伝へふた伝へ過ぎば、いつとなくこの国の音となるべし。唐音唐話を学ぶ人は、いつとてももろこし人に習ふよりほかあるまじ。黄檗（わうばく）の課誦（注2）はみなみな唐音なれど、何事ぞやと唐僧は疑へるといへり。これも数世の後には、この国の音となるべし。

もろこし音にて上より読みくだし、文義の通ずるといへる事、不審なりと思へる人ありしまま、いかにもさ思ひ給ふなるべし。されど物事馴（な）るるにこそ候へ。それがし十四歳なりし時、もろこし人に下知し給ふ文、あづまよりくだり候へど、文字の道違へる故にや、もろこし人読み重ね候ひて、訳者ども集まり、あらためて見せ候ひしと、商物（あき）するとて長崎に通へる稲某といへる者語りしまま、[E]げにもと思ひ、二十四歳なりし時より、もろこし音を学べり。初めはよその事聞けるがごと

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

くおぼえしかど、年の数二十あまり重ねて、おほかたこの国の物読みするに近くなり、目の当たりの事は、もろこし人と物語りをもなせし。生まれつきさとく、いとけなき時より学べる人は、それがしがごとくにはあるまじ。世の逆事（さかごと）といへるもの、はじめはいひがたく、聞きがたけれど、後には常となるがごとく、また［F］不了簡などいへる、無の字不の字を先にいふは、この国の言葉にはあらねど、馴るる故にこそ思慮に及ばず、耳にも入り、口にもいへ。もろこし音学ぶも、またしかなりと知り給へと答へき。

上より読みくだして文義の通ずる事、人々よくすべきにしもあらねば、G<u>通国の法とはなしがたかるべし</u>。生まれつきを見て教ゆべきにや。韓言葉は甚だやすし。それがし韓へ行き、三年力を用ゐて、おほかたつかへなきほどに学べり。我が国に同じく反言なるが故なり。

この国に文作るといへる名ある人、経義を説きて書ける書物を韓人に見せけるに、これを見候へば、経義もさとり、または文作るの法をも知り、まことに我人の及ぶべきにもあらず、尊き書物なりといひて、朝夕喜びて読みけるが、折々いへるは、このところは文字余り、このところは文字足らずして読みがたし。これは顚倒して句読をなせし故なるべし。［H］と

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

やいふべき。惜しむべき事なりと語りき。また正徳信使(注3)の時、四六の啓札(注4)を韓人に送りし人ありしに、この人はいかが物学びして、かくまで妙なる文をば書きたるやと喜びあへりき。これらはもろこし音を学びたるにはあらねど、その才高く、しかも学いたりて、異国の人をも感ぜしむるなり。

(注)

1　「淮」…黄河と長江との間を東西に流れる中国第三の大河。華北と華南との境界と見なされる。

2　「黄檗の課誦」…黄檗宗で勤行の際に中国語音で唱えられる経文。

3　「正徳信使」…正徳元年（一七一一）秋に来訪し、翌年春帰国した朝鮮通信使。

4　「四六の啓札」…四字、六字から成る対句を連ねた、美文調の書状。

問一　傍線部Ａ・Ｃ・Ｇの意味として最も適当なものを、それぞれ次のイ～ニの中から一つ選べ。

Ａ

イ　もっと精巧な文字が発明できたはずなのに

ロ　誰しもが文字を読み書きできたはずなのに

ハ　詩文の才能を磨くことができたはずなのに

ニ　漢字を自在に操ることができたはずなのに

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

C
イ　不可思議な才能と考えるかもしれない。
ロ　風流な嗜みであると賞賛するであろう。
ハ　珍妙奇天烈なことだと不審がるはずだ。
ニ　深く情趣を解すると考えるに違いない。

G
イ　外交上の儀礼として準用することは難しい。
ロ　日本中で一般に適用するわけにもいくまい。
ハ　異国間の通商を促進する制度とも言えない。
ニ　国際的共通語として定めることもできない。

問二　傍線部B「ひとかたのみを知れる言葉なるべし」の説明として最も適当なものを、次のイ〜ホの中から一つ選べ。

イ　中国語の力が詩文を作るのに必須というのも、そうでないとするのも、ともに不十分な見方である。
ロ　中国語が真に理解できなければ、漢詩文を作れないとする意見は、中国人の立場からの偏見である。
ハ　中国語ができなければ漢詩文をよく作ることができないとの主張には、一応もっともな理由がある。
ニ　中国語がいくら上達しても、日本人には漢詩文を作ることは不可能だとの決めつけは、誤りである。
ホ　中国語の運用能力や詩文の才能は、その人のもつ豊かな文学的資質とは、本来無関係なものである。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問三　空欄 D には、形容詞「すくなし」に助動詞「べし」が接続した文節が入る。文法的に正しい形を作り、すべてひらがなで記せ。

問四　傍線部E「げにも」に対応する内容の説明として最も適当なものを、次のイ〜ホの中から一つ選べ。

イ　風土によって事物が変化していくのは当然である。
ロ　本格的に語学を学習し身につけるのが肝要である。
ハ　言葉の壁は努力によって克服しなければならない。
ニ　言語の変化は万国共通の真理と考えざるを得ない。
ホ　文法的知識よりも正しい発音の会得が大切である。

問五　空欄 F には、すぐ後に併記される「不了簡」と意味の近い、漢字三字の語句が入る。最も適当な語句を記せ。

問六　空欄 H に入るのに最も適切なことわざを、次のイ〜ホの中から一つ選べ。

イ　医者の不養生　　ロ　河童の川流れ　　ハ　紺屋の白袴
ニ　玉にきず　　ホ　暖簾に腕押し

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問七　問題文の内容と合致するものを、次のイ〜ホの中から一つ選べ。

イ　中国の現代語に通じることは、古典語で作られる漢詩に巧みであることを保証しない。

ロ　中国語と日本語の相違は克服できるものでなく、取り入れた発音も自然に変化した。

ハ　韓国語は日本語と極めて近い言語であるため、たいていの人が容易に習得できる。

ニ　日本人であって才能ある者は、中国人や韓国人よりずっと優れた漢詩が作れた。

ホ　中国とも韓国とも、互いに言葉を理解し合い、友誼を深めなければならない。

© RECRUIT HOLDINGS

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第四講　復習問題

① 小野僧正仁海が生存していた時代（注釈より九五四～一〇四六年）に成立した作品を、次の中から一つ選べ。

イ　宇治拾遺物語　ロ　源氏物語　ハ　太平記　ニ　とはずがたり　ホ　日本霊異記

②『『も』の字』とは何助詞か。最も適当なものを次の中から一つ選べ。

イ　格助詞　ロ　間投助詞　ハ　係助詞　ニ　接続助詞　ホ　副助詞

③「いとけなし」の意味として、最も適当なものを次の中から一つ選べ。

イ　かわいい　ロ　おさない　ハ　かしこい　ニ　無邪気な

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

【第四講】

〈模範解答〉

問一　A　ニ　　C　ハ　　G　ロ
問二　イ
問三　すくなかるべけれ
問四　ロ
問五　無分別
問六　ニ
問七　ハ

〈現代語訳〉

中国の漢詩と、この国の和歌は、奥深いことは変わりはないにちがいない。漢詩は作り易いけれど、和歌は詠むのが難しいと言っている人がいる。これはそういうことがあるにちがいない。和歌はこの国の言葉なので、こんなふうに詠んでは和歌ではないということは、詠んだ者も、また見る者もその感覚があるけれど、漢詩は中国の言葉なので、そこそこに作ってもだいたいわかる程度なので、その（作った）本人もよいと思い、見る人も上手だと誉めたてることから、和歌は詠むのが難しい、漢詩は作り易いというのだ。もし中国人が、この国の和歌を詠むことがあったら、和歌は詠み易いけれど、漢詩は作るのが難しいと言うにちがいない。漢詩は作り易いと言っているのは、漢詩を知らない人の発言、和歌のことを詠み易いと言っているのは、和歌を知らない人の発言であるにちがいない。どちらか一方が容易なことなのであろうか、（いや、どちらも奥深いことに変わりはない）。漢文を作ることについても、またこの（漢詩の）場合と同じだ。

この国に仮名というものがなかったならば、人々は漢字を自在に操ることができたはずなのにと言っている人がいる。これは

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

思いのほかの発言だろう。中国の漢字、インドの梵字、朝鮮の諺文、この国の仮名、そのほか韃靼、オランダの文字、すべてその国の言葉に対応し、誰が始めたということもなく、女子や、身分の低い者たちまでがこれを用いている。本当に自然の道理に発している。仮名というものがなかったらと言っているのは、その国々の言葉がなかったらと言っているのと同じであろう。

この国の漢詩を作り、漢文を書いている人は、その才学を見ると、中国の誰々、それそれなどといった人に、そこまで劣るまいと思う人はいくらでもいるけれど、言葉が違っているために、それだけで終わらせ、残念なことというべきだ。

中国の言葉を知らなくては、漢詩を作り漢文を書くことはできないだろうと、中国語を学んでいる人は必ずと言っているが、中国の言葉を知っている人の詩文を見ると、（中国語を知らない人の詩文と比べて）そこまで違っていることはないので（中国語の力は詩文を作るのに必須ではない）と、またある人が言っている、これはすべてその一方だけを知っている発言であるにちがいない。詩文は言葉の真髄であるものなのだから、言葉を知らなくて、どうして真髄を求められようか（いや、求めることはできない）。この国の言葉を知らない中国人が、和歌を詠むと言ったら、珍妙奇天烈で不審なことだと思うのであるはずだ。しかし詩文を上手に作れない中国人は、いくらでもいるのだから、中国語を知っているからといって、詩文を上手に作ることができるのでもない。真の詩文といったものは、中国の言葉を知って、しかも才学がすぐれていた阿倍の誰それ、釈空海などといった人は、恥をかくことがあまりないにちがいない。私は中国語を少々学んだけれど、漢詩を作り漢文を書くことは知らないので、私の（詩文の）拙劣なのを見て、中国語（の学習）をやめなさるなと、同志の人にはいつも話した。

およそあらゆる漢字は、訓読みはこの国の言葉であるけれど、音読みはもともと中国の発音である。しかし中国の発音に似ているものは非常に少ない。気候が違っているからであろうか、（中国では）橘は淮河を越えると変化して枳となるといったことについて、おかしなことだと言ったところ、この国でも密柑、九年母などといったものは、その樹をもっていって出羽に植えると、すべて枳殻となるという。近頃ある和尚の話によると、薩摩から産出する紅密柑というものは、色も美しく、味わいもすぐれているので、その種を取って植えたところ、間もなく芽が出たけれど、すべて柚となったと話した。中国音も数度の伝来を経過したなら、いつの間にかこの国の発音となるにちがいない。中国音や中国語会話を学ぶ人は、いつも中国人に習うよりほかはあるまい。黄檗宗の課誦はすべて中国音であるが、何を言っているのかと中国僧は首をかしげているという。これも数世代の後には、この国の発音となるにちがいない。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

中国音で上から下へ順に直読し、文の意味が通じると（私が）言っていることを、疑わしいと思っている人がいたので、「なるほどそう思いなさるのであるにちがいない。しかし物事は慣れることです。私が十四歳だった時、中国人に命令なさる文書が、幕府から下るのですが、（語順など）漢字の用い方がちがっていたからでしょうか、中国人は何度も読みまして（理解できず）、訳者たちが集まり、書き直して（中国人に）見せましたと、商売をするということで長崎に通っていた稲某といった者が話したので、（私は）なるほどと思い、二十四歳だった時から、中国音を学んだ。最初は（自分とは）無縁なことを耳にしているかのように思われたけれど、年齢を二十あまり重ねて、あらかたこの国の物を読むのと同じように読めるようになり、身近な日常のことは、中国人と会話もできた。生まれつき聡明で、幼い時から学んでいる人は、私のように（習得が遅く）はあるまい。世間の逆さ言葉といったものは、初めは言うのが難しく、聞き取りにくいけれど、やがて当たり前になるのと同様に、また無分別・不了簡などといった、無の字や不の字を先に言うのは、この国の言葉ではないけれど、慣れるからこそ考えるまでもなく、耳にも入り、口にもする。中国音を学ぶのも、またそれと同じとご理解ください」と答えた。

（漢文を）上から下へ順に直読して文の意味が通じることは、みんなが上手にできることでもないので、日本中で一般に通用するわけにもいくまい。生まれつき（聡明かどうか）を見て教えるべきであろうよ。韓国語は非常に易しい。私は朝鮮へ行き、三年努力して、だいたい支障がないくらいに習得した。我が国と同じく述語が目的語より後にくるからである。

この国で（すぐれた）漢文を作るということで評判のある人が、経書の意義を解説して書いた書物を朝鮮人に見せたところ、「これを見ますと、経書の意義も理解し、また漢文を作る方法もわかり、本当に我々にはまねできないほど、尊い書物である」と言って、常に喜んで読んでいたが、ときどき言っていたのは、「この箇所は文字が余計で、この箇所は文字が足りなくて読みにくい。これは（訓読によって漢文の語順を）入れ替えて読むことをしたためであるにちがいない。玉にきずというべきだ。惜しむべきことである」と話した。また正徳元年に朝鮮通信使が来朝した時、四六文の書簡を朝鮮人に送った人がいたところ、（朝鮮通信使は）「この人はどのように学問をして、ここまですぐれた漢文を書いたのか」と喜びあっていた。これらは中国音を学んだのではないけれど、その才能がすぐれ、しかも学問を究めて、外国の人をも感心させるのである。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第四講　解答解説

〔解説〕

① 源氏物語成立は平安中期。一〇〇〇年前後と覚えておくとよい。早稲田の文学史問題は、成立年度を絡めた問題が多い。大まかな流れをきちんとつかんでおくこと。

② 「も」は係助詞。係助詞は「ぞ・なむ・や・か・こそ」だけではなく、「は・も」もあることを忘れずに。よって、正解はハ。

③ 「いとけなし」「いはけなし」「いときなし」の意味は「幼い」。よって、正解はロ。

〔解答〕

① ロ　② ハ　③ ロ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。